

広報

中部の森林



写真：浅間山(東信署管内)

特集

- ・「木曽悠久の森」設定10周年記念シンポジウム
- ・令和6年度 中部森林・林業交流発表会

シリーズ

- ・各地からの便り、森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局

私の森語り「林業の根幹である苗木づくり」
株式会社前田樹苗園 代表取締役 土谷 由希子



2025/No.252

「木曽悠久の森」設定10周年 記念シンポジウムを開催

【計画課・木曽森林管理署・

木曽森林ふれあい推進センター】

二月二十日、「木曽悠久の森」設定十周年記念シンポジウムを長野県上松町の「ひのきの里総合文化センター」にて開催しました。

中部森林管理局では、天然のヒノキ、サワラ等の木曽五木を含む温帯性針葉樹林を厳格に保存・復元するため、平成二十六年に木曽地方（長野県内の木曽谷や岐阜県内の裏木曽）の国有林約一万七千ヘクタールを「木曽悠久の森」として設定してから十周年を迎えました。

木曽地方には、針葉樹を中心に様々な植物や動物が生育・生息する森林が残されており、温帯性針葉樹林と呼ばれ、世界的にも大変貴重で希少なものです。また、古くから良質の木材産地として、歴史的・文化的に貴重

な社寺仏閣等の維持や、地域の木材産業の継承・振興に大きな役割を果たしてきました。

本シンポジウムは、温帯性針葉樹林の姿やその希少性、歴史的・文化的な建造物等の維持に果たしてきた役割を共有するとともに、生態系の回復に向けた先進的な取組として、この森の将来の姿を地域とともに考えることを目的として開催され、地域住民、地元学生、県・市町村

「木曽悠久の森」とは

木曽地方に現存する温帯性針葉樹林をまるとまると連続性をもって保存するとともに、人工林は天然林に誘導し温帯性針葉樹林への復元を図る区域として、「森林生物多様性復元地域」を設定（平成26年4月）。※「木曽悠久の森」は公募により決定した愛称



関係者、森林・林業関係者、当局職員など、約二〇〇名が参加しました。

シンポジウムでは、主催者である中部森林管理局長の挨拶に続き、計画保全部長から木曽ヒノキ林の成り立ちや、「木曽悠久の森」の設定に至る経緯やこれまでの取組について紹介しました。



森谷局長による主催者あいさつ

基調講演として、（公財）日本自然保護協会参与の横山隆一氏及び神宮司庁営林部長の松永彦次氏からお話をいただきました。



横山参与による基調講演

横山氏からは、「木曽悠久の森の価値と意義」をテーマに、「木曽地域の森は原生林ではなく半自然林であっても、世界的に見れば三〇〇年伐採されずに残ってきた異例の高齢林である」、「温帯性針葉樹林がまとまって残っているのは大変価値のあることであり、世界や日本でここだけ、ここが最後という自然遺産であることがこの森の最大の価値であると思う」といったお話をいただきました。

松永氏からは、「^{しきねんせんぐう}式年遷宮と木曽地方の森林とのつながり」これまでとこれから」をテーマに、二十年に一度行われる式年遷宮は一、三〇〇年の歴史がある行事であり、約三〇〇年前から木曽地方のヒノキ材を使用し、この地域との深いつながりが続いていくことについて説明があり、「木曽悠久の森が木の文化と

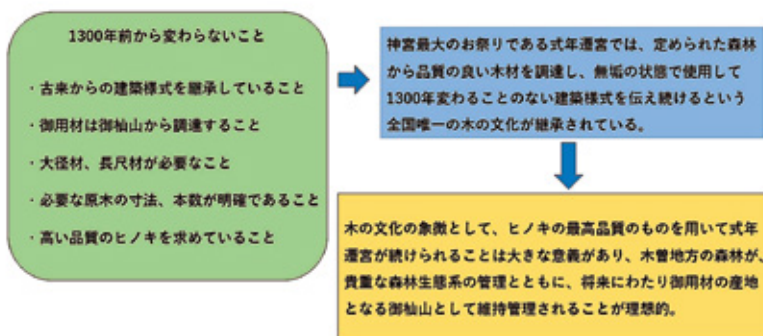


横山参与の基調講演資料（抜粋）



松永営林部長による基調講演

木の文化を未来に引き継ぐ



松永営林部長の基調講演資料（抜粋）

森林を守る文化の懸け橋となつてほしい」とのお話をいただきました。

最後に、「木曽悠久の森が目指すべき姿」をテーマにパネルディスカッションが行われ、パネリストとして上松町長の大屋誠氏、信州大学教授の岡野哲郎氏、木曽官材市売協同組合理事長の勝野智明氏、（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所研究リスク管理監の正木隆氏と横山氏が登壇して意見を交わしました。

パネリストからは、「目指す温帯性針葉樹林の目標像と、やるべき技術を考える上で、復元の対象となる人工林の管理の指針を考えていく必要がある」、「森林の生物多様性を考える上で、過去の研究やモニタリングのデータから、環境によってどのような森林が形成されていくのか説明できるようにすることが重要である」、「日本の木の文化の価値観は大切であり、歴史や伝統だけでなく、職人の技術の



パネルディスカッションの様子

伝承が関わっている。この森が木の文化の触れる機会につながっていけば良い」など、各々の専門的な視点から「木曽悠久の森」への思いや提案をいただき、シンポジウムは盛況のうちに終了しました。

今後も多くの方々のご意見やご知見をいただきながら、「木曽悠久の森」が目指す森林管理を進めてまいります。

「木曽悠久の森」は長野県上松町、王滝村、大桑村、岐阜県中津川市の国有林に設定しており、その面積は約17,000ha（東京ディズニーランド約340個分）に相当します。

区域内には「赤沢自然休養林」、「阿寺風致探勝林」、「付知峡自然休養林」などレクリエーションの森も含まれています。これまで行ってきた写真コンテスト入賞作品により、その風景を紹介します。



【赤沢自然休養林】



右：「森の散歩道」
左：「悠久の自然太古からのぞく」
下：「溪谷を行く」



【阿寺風致探勝林】



「阿寺溪谷」



「紅葉の二人」

【付知峡自然休養林】



こぼくえい はっ
「枯木栄を發す」



「不動滝の雄姿」

【普段は目にすることができませんが……】



上：「三ツ紐伐り」（付知峡自然休養林内）
右：「生きる力」（赤沢自然休養林内）



中部森林・林業交流発表会

【技術普及課】

二月十三日と十四日の二日間、中部森林管理局の大会議室にて「中部森林・林業交流発表会」を五年ぶりに対面開催しました。

本発表会は、国有林から十三課題、民有林や高校・大学関係者から十課題の発表があり、審査・評価の対象となる国有林の部では、六名の審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞一点と、優秀賞二点が選定されました。

【局長賞最優秀賞】

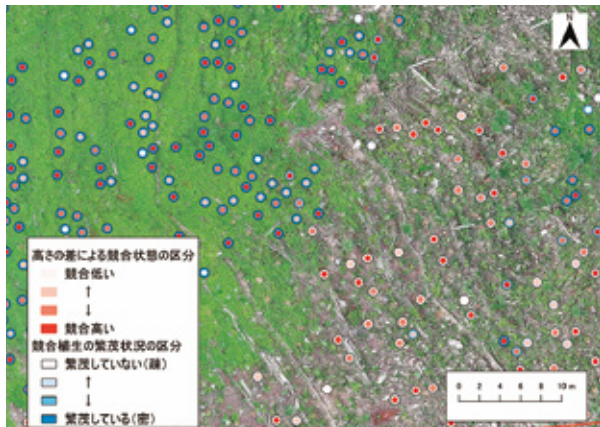
ドローンを用いた植栽木と競合植生の状態の把握について
下刈省略区域の設定に向けた
ヒノキ造林地における取組

(岐阜森林管理署)

岐阜署では現在、植栽木と雑草木との競合状態の把握には現地踏査を行っており、下刈り要否の判断に時間と労力がかかっている状況です。そ

こで今回、ドローンを用いた競合状態の把握を試みました。

ドローンで対象地を撮影した写真から、オルソ画像や数値表層モデルを作成し、植栽木から半径二〇センチと五〇センチの円内に含まれるデータから、植栽木と雑草木の高さの差やVARI値の平均値を算出し、競合状態や繁茂状況を区分しました。



競合植生の状態の区分

この結果、写真のように、植栽木ごとの競合状態を可視化することができました。斜面の方位(向き)や競合植生の異

なる区域で差がみられ、下刈省略区域の設定に活用できる可能性を見出しました。一方で、正確性に関する課題もいくつか見つかったため、今後検証していく必要があります。

【局長賞優秀賞 二点】

携帯電話不感地帯での治山工事における通信環境の導入について

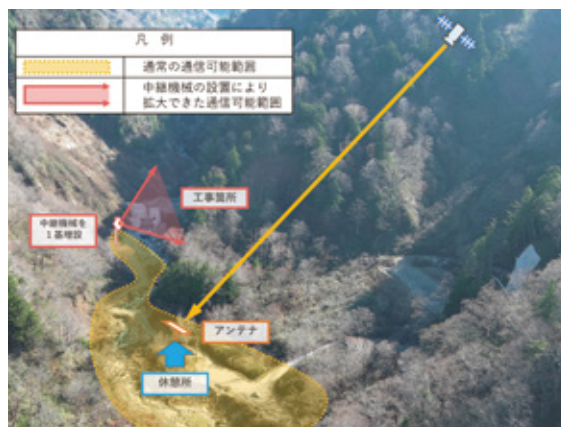
(追加報告) (富山森林管理署)

携帯電話通信エリア圏外となる山間部奥地の治山工事箇所は、安全対策や施工管理の点で業務の効率化が困難な状況にありました。

令和二年度から電波受信エリアから工事箇所までの区間に中継機を複数設置し、既存のLTE回線電波を到達させるシステム構築に取り組んできましたが、通信速度の不安定さや維持費のコストが課題として残る結果となりました。

そこで、今回は新たに「低軌道衛星通信」の導入を試行した

ところ、通信速度が大幅に改善され、関係者間のやり取りが円滑化しました。また、専用アプリにより遠隔現場が恒常的に実施できるようになり、課題であった監督業務の短縮や効率化を図ることができました。



低軌道衛星通信の導入

現場の条件に合わせた通信機器の選択は、よく検討して見極める必要がありますが、通信環境が整うことで林業・土木現場のビジネスモデルに変革が生まれる良い事例となりました。

防護柵（ブロックデیفエンス）を活用したニホンジカの捕獲方法について

（技術普及課・南信森林管理署）

造林地を囲う防護柵にニホンジカが干渉することで破損し、そこから柵内に侵入されて被害が発生することが多々あります。そこで、造林地内の作業路を遮断せずに二ブロックに分けて防護柵を設置する「ブロックデیفエンス」の現場で、シカの通り道を確保して柵への干渉を避けつつ、くくりわなを設置し、その作業路を利用するシカの捕獲を試みました。

作業路とその周辺に、令和 4 年度は、わな六基を設置して一頭、令和 5 年度は、十基で三頭、令和 6 年度は、八基で十六頭捕獲しましたが、当初想定していた作業路区間での捕獲には至りませんでした。また、センサーカメラにはシカが通行する様子が撮影されたものの、身を隠す雑草木がない当該区間では採餌行動を取らないことも分かりました。

今後、こうしたシカの行動特性を把握しながら、わなの設



作業路を利用するニホンジカ

置手法を検証していく必要があります。

このほかの国有林の発表

「森林技術部門」では、天然更新や下刈省略に対する機械掻き起こしの効果の有無を検証した取組や、設定から間もなく六十年を迎える三浦・助六実験林での木曾ひのき天然更新に関する経過報告、下刈頻度の異なる試験地を比較したヒノキの成長量差の考察、UAV による撮影方法の組合せにより林分調査の精

度が向上した取組など、各署で林業の低コスト化に向けた試験的取組が目立ちました。また、浅間山が積雪期に噴火した場合に発生するとされる「融雪型火山泥流」への長期計画的な防災対策、3D モデルデータの活用による治山事業の情報受発信の円滑化といった林地保全分野の取組も多数みられました。

「ふれあい・地域連携部門」では、飛騨市が目指す持続的な広葉樹産業に対する国有林からの広葉樹供給増に向けた可能性の検討をはじめ、長野市の戸隠森林植物園内の老朽化が著しい木道に対し、地域が一体となって行う再整備の取組、そして二十年以上続く国有林林道を活用した王滝村のクロスカントリー大会にみる地域活性化事例や、愛知県内の治山工事の現場見学会を通じた地元住民への理解醸成など、地元地域が掲げる課題解決や支援に向かう職員の工夫と熱意が感じられる発表が続きました。

民有林・学生による発表課題

地域の森林モデルを目指して

「生産性と環境性を両立した持続可能な森づくり」

（飛騨高山高等学校環境科学科）

高校の演習林では、生産性と環境性を両立した持続可能な森づくりに取り組んでいます。伐採木は県産材登録のうえ出荷し、林地残材はアロマオイルや燃料として有効利用を図りました。適正管理により明るくなった山林では、多くの動植物の生息が確認でき、生産性と環境性が整うことで、森が持つ多面的機能を引き出せることを実感しました。

クマとの共存を目指して

（長野県下高井農林高校）

クマと人との共存を目指し、緩衝帯整備として耕作放棄地の草刈り等を地域住民と共に行いました。併せてクマ鈴のワークショップも開催し、住民の方々にクマの生態や出沒させない環境づくりの重要性を説明しました。整備後のセンサーカメラ調査では、クマの出没頻度が大きく減少し、地域全体が関心を持つて取り組む大切さを実感しました。

木曽青峰里山活用プロジェクト

ICTを活用した里山情報の継承（木曽青峰高校）

木曽地域では高齢化や人口減少に伴い、農林業の担い手が減少し、伐期を迎えても活用計画がないなど里山の荒廃が進行しています。山林所有者や新たな担い手、地域住民らと共に、持続的な里山の活用を検討していくために、必要な森林情報がICTやGIS情報を用いることで効率化することを目指し、様々なソフトの有効性を確認しました。

南アルプス大規模雪崩跡地の初期森林回復にキイチゴ類繁茂が及ぼす影響

（信州大学大学院）

数沢雪崩跡地に繁茂したキイチゴ類群落が森林回復を阻害する可能性があることから、亜高山帯林の主要樹種五種の更新に与える影響について考察しました。

食害の被害があればシカは獲れるのか

センサーカメラを用いたわな初心者捕獲取組

（信州大学）

農学部農学生命科学科

食害が発生している地域であつても、センサーカメラにはほとんどシカが写らない状況でした。わなを設置したもの、カメラ撮影率の低い場所では、やはり捕獲には至らないという結果が得られました。

主伐地における簡易架線集材の見学会開催報告

スイングヤーダによる作業システムの普及と事業体連携を目指して

（長野県佐久地域振興局林務課、南佐久中部森林組合）

佐久地域では急傾斜地での集材作業が課題です。スイングヤーダ簡易架線集材により、荷かけ者の重労働がなくなり、木材生産量も増加し生産性が上がりました。索張りができる技能者の育成、施業技術の事業体間の情報共有が課題です。

大苗植栽による下刈り省略化の検証（長野県林業総合センター）

大苗植栽による初期樹高の確保と、競合状態の改善を組み合

わせることで下刈り回数の削減が可能かどうかを検証しました。人力地拵えか機械地拵えかで競合植生の抑制に大きな差がありました。

センダンの種苗生産及び育林技術に関する研究

（愛知県森林・林業技術センター、愛知県新城設楽農林水産事務所）

早生樹として注目される「センダン」を新たな造林樹種に導入するべく、育苗試験や成長調査を行いました。生育環境として適合した新城市や豊田市では著しい成長がみられましたが、生育に不向きといわれる高標高地ではやはり生育が困難であるという結果が得られました。

再造林における下刈りのための植生分類（岐阜県森林研究所）

再造林地での出現植生に応じた下刈り完了の判断基準提案を目的に、一四地点で調査を実施しました。これにより、競合する植生の高さは最大で約二〇センチメートルであると示唆されたため、植栽木がその高さを越えれば、下刈り完了の判断基準に

なると考えられます。

超緩効性肥料で育成したヒノキ実生コンテナ苗による低コスト再造林技術の提案

（岐阜県森林研究所、森林技術支援センター）

初期成長を早めるための超緩効性肥料を施肥した苗は、植栽して二年目以降には、従来苗と比較して樹高や根元径が大きい傾向が続きました。植栽一年目の成長がその後の成長の鍵となるため、成長を阻害しないよう春に植栽し、雑草木に優位になるまで三年ほどは下刈りを実施に実施することが必要です。

今年度の発表会の様子は、今月末まで中部森林管理局ホームページ内で配信していますので、是非ご視聴ください。





森谷局長からの管内概要説明を熱心に聴く大使

三月六日、二〇二五年度「ミス日本みどりの大使」に選出された佐塚こころ氏が中部森林管理局に来訪されました。

佐塚氏は長野県佐久穂町のご出身、今回、長野県知事・佐久穂町長への表敬訪問の合間を縫っての来訪でした。

森谷局長による中部局管内の概要説明を受けた後には、大使としての活動への意気込みを話されました。その後に設けられた局内若

【総務課・資源活用課】

二〇二五年度
「ミス日本みどりの大使」来訪



間伐材で製作されたハープを手に大使へ説明

意見交換後は善光寺へ向かい、平成の大修理により、檜皮葺きから建立当時の天然サワラの桷葺へ改修された善光寺山門を見学しま

手職員との意見交換では、七名の職員が担当する仕事等について説明を行いました。七名からの説明後、時間が限られる中、全ての職員に対して質問を返す姿に「みどりの大使」としての矜持を感じました。



自作の「木の花」を手に語る大使



「みどりの大使」佐塚氏を囲んで記念撮影

した。山門では、桷葺をより近くで眺めながら、村上森林整備部長から、材料は国有林から供給されたことなどの説明がありました。その後、過去の善光寺御開帳の際

「みどりの大使」は、六名が選出される「ミス日本」(グランプリ・準ミス・水の天使・海の日・ミス着物・みどりの大使)の中で最も活動日数が多いそうです。佐久穂町が独自に進めてきた森林環境教育活動に、小学校の頃から参加し、高性能林業機械の操作も体験している佐塚さんの今後の「みどりの大使」としての活躍に期待しています。

に利用された回向柱などを見学し、中部森林管理局訪問の行程を終了しました。



善光寺山門にて桷葺の説明を受ける大使 (写真右)



大正時代頃の木曽谷の御料林における小谷狩風景。裏木曽でもこれに近い風景が見られたと思われる。

水を利用して川の本流へ木材を運ぶ「小谷狩」ですが、裏木曽の場合は付知川下流や木曽川本流まで距離がありますので結構な長丁場となります。

「裏木曽」その十一 小谷狩③

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第47回

中部森林管理局総務課

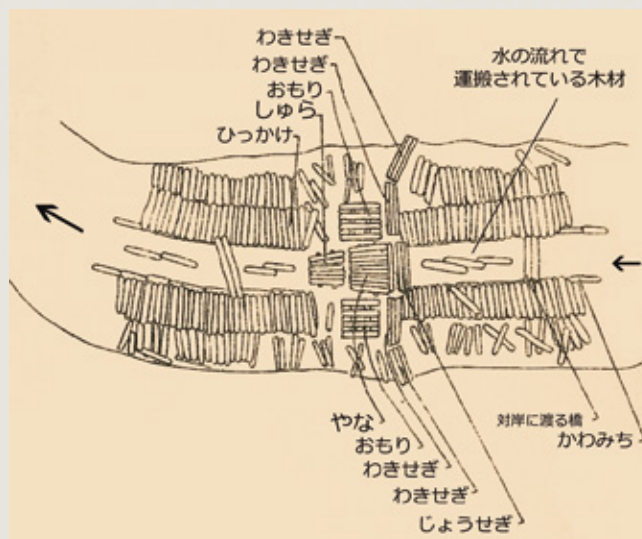
井上 日呂登



「付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解」より
明治末から大正初め頃の付知川での
小谷狩風景のイメージ図

随所で焚火で
暖を取る風景
が見られる

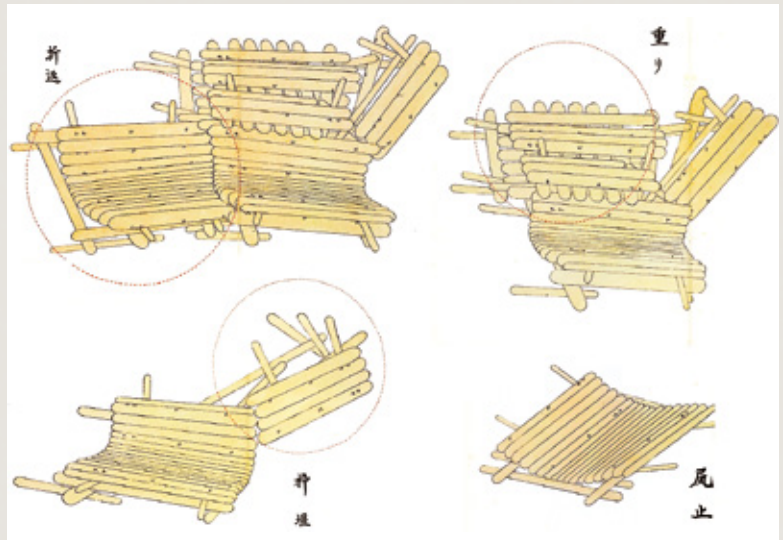
「小谷狩」に用いられる施設は大別して沢や川の水位の高低をコントロールする「堰」と、丸太が散乱して流れないように誘導する「川路」からなります。



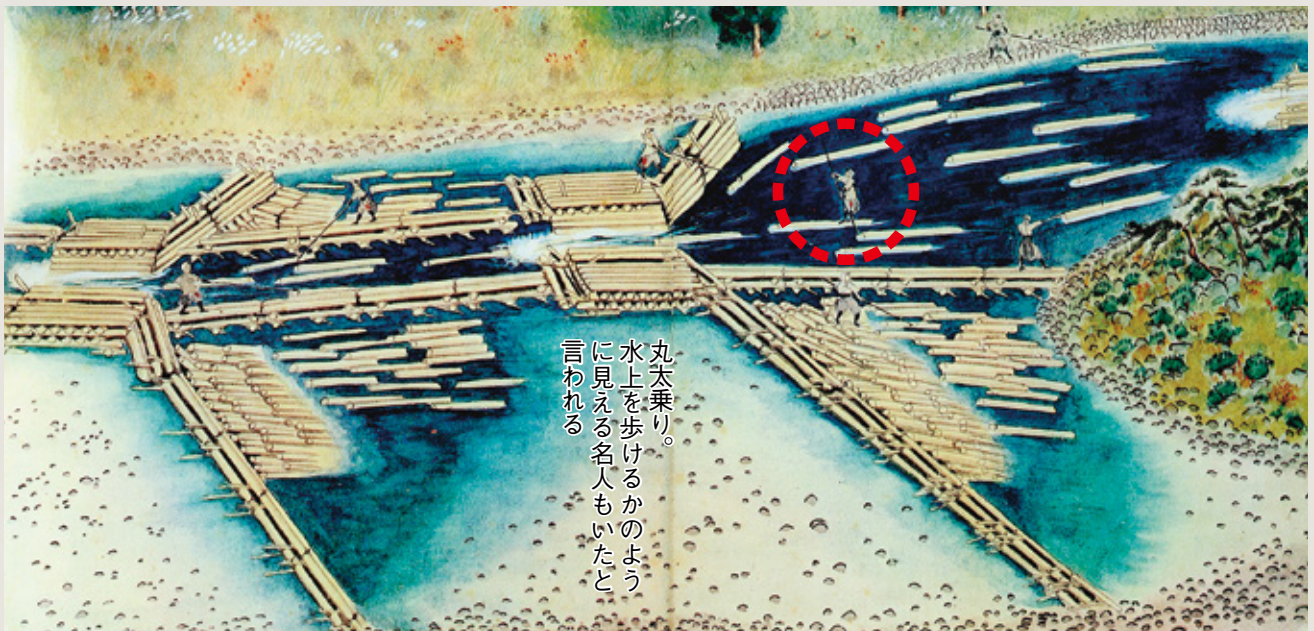
「小谷狩」の俯瞰図
(帝室林野管理局発行
「木曾御料林之造材運材」を元に作成)

設を造ってから一気に運びますが、「小谷狩」の区間は長いので人も運材施設も全区間に分散して配置することはとてもできません。このため運材の先頭の「木鼻役人」が指揮する組が流れてくる木材で運材施設を構築しながら、最後尾の「木尻役人」が指揮する組が運材施設を解体し、全体として徐々に下流へと進んでいきます。

これらは地形や水量に合わせた各部位を組み合わせて造られますが、施設を構築している材料は基本的に運搬している木材そのものです。「木鼻役人」達は次々と流れてくる木材を見極めて独特な構造の運材施設を組んでいかねばなりませんし、「木尻役人」達は水の力がかかっている運材施設を安全に解体しなければなりませんから、特に技術優秀な者が選ばれた（第四十六回参照）というのも頷けるところです。



「付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解」より
「堰」の各部位の構造図
現場では設計図など無しに経験と勘でこれを組んだ。



丸太乗り。
水上を歩けるかのように
見える名人もいたと
言われる

急な大雨が少ない晩秋から冬に行われた「小谷狩」ですが沢や川の水量の変化で危険となることになりはなくなり、水の力を利用する運材方法だけにそのコントロールには細心の注意が払われました。



大正時代頃の木曽谷における小谷狩風景

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、コードを読み込んでください。



シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【東信森林管理署】

佐久平森林事務所

佐久平森林事務所は、長野県東部に位置する佐久市岩村田に所在し、佐久市、南佐久郡の国有林約二二、一三二ヘクタを、森林官を含む三名の職員で管理しています。

南佐久郡は、信州と上州の分水嶺にそびえる船の形をした荒船山をはじめ、甲武信ヶ岳、国師ヶ岳、金峰山、赤岳等の八ヶ岳連峰の山々に囲まれています。夏は涼しく、冬は極寒となり、登山やスキーのほか、特産の高原野菜を購入する観光客の姿も多く見られます。

当事務所の主な業務として、帯状やモザイク状の伐採を行い、林齢や樹種の異なる森林へ誘導するための整備や、立木販売跡地の植



船の形をした荒船山

左側の断崖絶壁が鱸岩、右側の突起した部分は経塚山

付、下刈などの保育作業の監督を行っており、日々、事故の無いよう安全第一で業務を進めています。その他に、貸付地や、広範囲に及ぶ民有地と隣接する境界の確認などを行い国有林の適切な管理に努めています。



宇宙航空研究開発機構（JAXA）の探査機用の通信施設

大曲国有林内にある白田宇宙空間観測所は、大型パラボラアンテナで宇宙探査機と通信する施設となっており、ハレー彗星探査機さきがけ・すいせい、火星探査機のだぞみ、小惑星探査機はやぶさなどとの通信を担ってきました。直径六四メートルの雄大なパラボラアンテナは、一般の方の見学が可能です。また、公表されている情報によると、人気アニメ「名探偵コナン」の劇場版最新作『名探偵コナン 隻眼の残像』（四月十八日公開）でも、長野県が舞台となっており、

劇中には管内にある国立天文台「野辺山宇宙電波観測所」が描かれています。このように宇宙観測所が多くある当管内の夜空は、満天の星空を楽しめる地域でもあります。

■未来の担い手へのメッセージ

森林づくりは一つの技術だけでなく、広い視野で技術を積み重ね、経験として活かしていく奥深い仕事だと思っています。是非、森林・林業に興味を持っていただき、一緒に「森林づくり」をしていきましょう。



浅間山をバックに事務所前にて（筆者中央）

中信高原最大の湿原

七島八島湿原希少個体群保護林

設定目的

当該保護林は、八ヶ岳中信高原国定公園内で最大の湿原であり、昭和三十五年に国の天然記念物「霧ヶ峰湿原植物群落」に指定されています。湿原の上に成立する貴重な植物群落と、周辺の天然林の保護・管理をしています。

地況・林況

霧ヶ峰高原の北西端、標高約一、六三〇メートルに位置しています。深さ八メートルを超える泥炭層が堆積する、推定堆積年数約八千～一万年の高層湿原です。

シリーズ

中部の保護林(第47回)

所在地
長野県諏訪郡下諏訪町



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

シリーズ

「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。

「林業の根幹である苗木づくり」



株式会社前田樹苗園
代表取締役
土谷 由希子

■自己紹介

大学卒業後、木工用機械刃物を製造する会社で事務職（人事・海外営業）として約十二年勤務。その間、三人の子どもに恵まれ、育児短時間勤務の終了を機に退職し、二〇一九年から家業の林業用苗木の生産に携わっています。

■活動内容

弊社では、林業用コンテナ苗木（ヒノキ・スギ）の生産をしています。愛知県内での苗木需要を考慮して、主にヒノキコンテナ苗の生産が中心です。今でこそ、コンテナ苗は一般的になってきましたが、弊社が生産に取り組み始めた二〇一二年当時は、まだコンテナ苗の生産手法が確立さ

れておらず、試行錯誤の連続でした。

現在では、安定的に七割以上の得苗率^{とくひょう}を維持しており、毎年十萬本のコンテナ苗生産を目標として苗木づくりに取り組んでいます。また、「国民病」とも言われる花粉症対策に貢献できるような、花粉の少ない苗木の生産も行っています。さらに、特定母樹^{とくひょう}（在来の系統より成長が早く、花粉量の少ない樹木）と呼ばれる新品種や、新しい肥料などが次々と開発されており、愛知県森林・林業技術センター、愛知県林業種苗協同組合と共同研究を行い、積極的にそれらを取り入れ、より合理的な苗木生産技術の開発に向けた取り組みを行っています。

■弊社が苗木づくりを始め

たきっかけは、私の祖父が、愛知県に林業用苗木の生産者がいなくなることに危機感を持



夏季におけるコンテナ苗への散水

ち、八十二歳の時に生産を始めたこととです。曾祖父の時代には苗木を生産していたものの、数十年間苗木づくりから離れていたにもかかわらず、生産を始めた祖父のバイタリティーには、頭が下がります。その後母、私へと家業が引き継がれて今に至ります。

素人同然の祖父、母、そして私が苗木づくりを続けてこられたのは、全国の生産者の皆さん、愛知県や組合、従業員など、本当に多くの方に支えられてきたからです。祖父が苗木生産を始めて十二年が過ぎました。今までいただいたご恩を少しでもお返しできるよう、視察を積極的に受け入れたり、今までの経験を伝えたりと、苗木生産技術の発展のために少しでも力になれるよう努力しています。

■メッセージ

コンテナ苗づくりは、軽作業が多く、時間的な融通も利くので、高齢者や子育て世代の女性が活躍できる仕事だと思っています。私自身も子育てをしながら苗木生産を続けることができており、このことがもつと世間に広がってほしいと思っています。



圃場の前で従業員とともに

また、林業は「植える↓育てる↓伐って使う↓植える」というサイクルを繰り返しながら森林資源を循環利用する産業であり、そのどこか一つでも欠けたら、資源の循環は進まなくなり、森林の健全性も失われます。「植える」という段階、まさに「林業の根幹」とも言える苗木づくりに携われていることを私は誇りに思っています。引き続き、優良な苗木生産に取り組み、日本の林業に寄与できるよう日々努力を重ねていきます。

■連絡先

愛知県丹羽郡大口町大御堂1-220-4
株式会社前田樹苗園





令和七年度から広報誌発行の見直しを行います

広報誌「中部の森林」では、中部森林管理局が行う取組の紹介などを中心に毎月定期的に発行し、あ

わせて局ホームページへも広報誌を掲載してきました。

令和七年度からは、より多くの方に関心を持っていただけるよう誌面の見直しを行う予定です。

現在シリーズで掲載中の「私の森語り」「保護林」「今は昔の林業」「森林官からの便り」については継続を予定しています。新たに、季節にあわせた特集や、森林・林業・木材産業・治山・土木に係る話題なども計画しています。

これまで「各地からの便り」で紹介してきた各署等の取組については、誌面に概要を紹介し、詳細はホームページに掲載する形への変更を予定しています。また、毎月の発行から二カ月に一回（奇数月を予定）となる見込みです。

広報誌の発行回数は減りますが、ホームページの一層の充実も含め、今後も積極的に情報発信を進めてまいります。

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



予告 フォトコンテストを実施します

令和四年度に実施した「林業従事者 写真コンテスト(フォトコン)」では、「令和の林業に携わる姿と風景」をテーマに多くの作品を応募いただきました。今回、内容を拡充し、林業従事者の皆さまを含め、より多くの方に参加いただける形での開催を予定しています。

詳細につきましては決まり次第、ホームページにてご案内させていただきます。

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

寒い冬を越えた木々や花が春に向けて準備を進めています。2月に咲き始めるネコヤナギの「ふわふわ」に春の兆しを、3月に入り漂う沈丁花の香りに春の歩みを感じます。

「花粉の飛散」により「身をもって」春の訪れを感じる方も多い中ではありますが、冬から春への季節の移り変わりは、柔らかな日差しとあわせて、待ち遠しく感じます。(あくまで「現時点での心持ちです」とつけ加えておきます。)

お知らせのとおり、来年度から広報誌の発行回数や誌面構成が見直しとなります。昨年4月から本欄を担当し、季節への思いなどを掲載してきました。読者のみなさまありがとうございました。引き続き「中部の森林」をよろしく願いいたします。



令和4年度フォトコン応募作品より

上：立山山麓に集う山人たち

右：ハーベスタによる伐倒（空撮）



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ

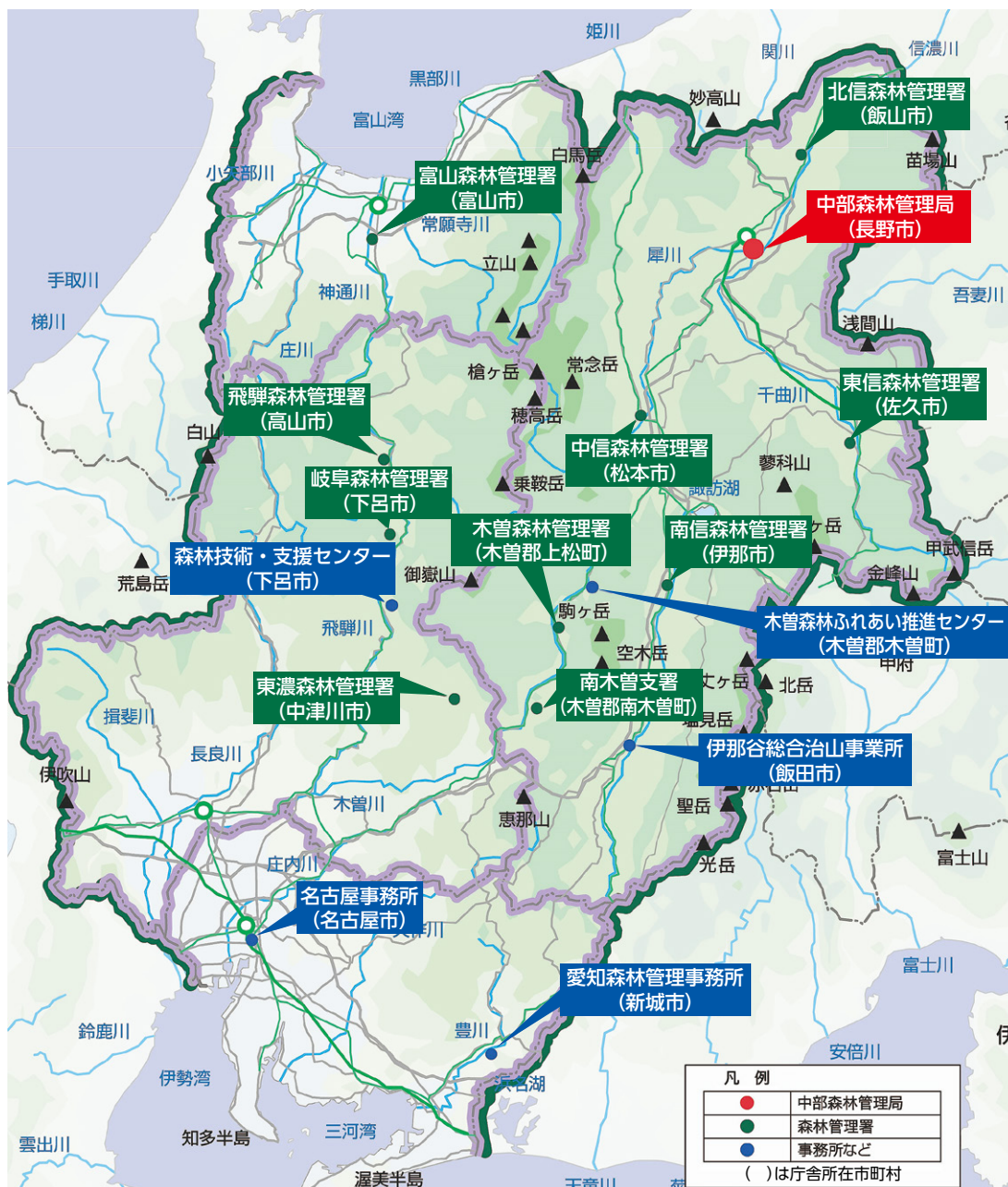


広報
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市臼田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

